



東濃地区の子育て・親育ち通信

家庭教育なう

No.6

2024年9月発行

恵那県事務所振興防災課 家庭教育担当 大島
〒509-7203 恵那市長島町正家後田 1067-71

TEL 0573-26-1111(内線 208)

FAX 0573-25-7129

MAIL oshima-akihiro@pref.gifu.lg.jp

「家庭教育なう」は恵那県事務所のHPからご覧いただくことができます。QRコード→



瑞浪市 PTA 連合会および子育て委員会主催 教育講演・懇談会

瑞浪市 PTA 連合会 教育講演・懇談会

デジタル・AI ネイティブたちの心を育てる

～アナログを知る私たちにできること～

日時
講師
参加者

令和6年7月23日(火) 19:00~20:45

浅間 正通 教授(東洋大学人間科学総合研究所客員研究員・静岡大学名誉教授)
瑞浪市小中学校職員、瑞浪市 PTA 子育て委員、青少年育成市民会議等 63名



講演→懇談会で、「学びの再構築」「つながり」づくり

浅間先生の講話で学ぶ参加者



その後テーマについて意見交流する参加者



瑞浪市は毎年、PTA 連合会、子育て委員会が主催して教育講演、懇談会を行っています。今年は、浅間正通(東洋大学客員教授・静岡大学名誉教授)先生をお迎えして、「デジタル・AI ネイティブたちの心を育てる～アナログを知る私たちにできること～」をテーマに講演していただきました。

講演後、小グループにわかれてテーマに即した懇談会をもちました。講演の内容は、国内の教育の気になる話題から海外(主にフィンランド)の教育事情など多岐にわたり、大学の先生のお話らしく、アカデミックで、エビデンスに基づいた内容でした。講演内容の一部を紹介します。

◇アナログとデジタルの相違について実験してみました

大学の講義で学生に自己紹介を課題として出しました。Aのグループには用紙に自筆で記入しての提出、Bのグループには、パソコンで作成して、メールで提出をさせました。Aは「アナログ」B「デジタル」での課題提出です。どんな違いがあったと思いますか。提出した課題の傾向として、Bのメールによる提出は、誤字、脱字が多くありました。また、自己紹介の中に、要望、要求(テスト簡単にして下さい等)が多くありました。Aの用紙による提出での傾向は、書き直した後(消しゴムのかす)がよく見られました。これらをどう解釈したらよいでしょうか。

それは用紙(アナログ)の方が、(デジタルより)相手意識を感じているということです。メールという機器が間に入ること、相手意識が薄れるのではないかと考えられます。相手意識が減少するから、内容もついつい要望、要求的な内容が増える傾向がみられます。これが、ひどくなるいわゆる「炎上」という状態につながるわけです。

従来のアナログによる2者関係が、メールという機器を間に会することで、1.5者ぐらいの関係になってしまうのです。相手意識が希薄になり、読んでどんな気持ちになるか推し量ることなく、相手に送りつけてしまう傾向が増えるということです。デジタルの活用では、こうしたアナログで大切にしてきたこと(他者意識を大切にすること)を踏まえることが大事になってきます。(講演内容を専門職が文章に起こしました。詳しくは、右のご著書をご覧ください。)



【参加された方と交流しました】

・青少年の主張大会の審査の際に、この主張原稿と AI について話題になりました。今年度は、そうした AI の使用を制限するようになりました。浅間先生の言われるように AI の利用により、「思考する」ことが減ってしまうことが心配になります。

【ここを学びたい】

・工夫した運営形態(講演+懇談会)

講演の後、懇談が設定されることで、自分の学びが確かめられます。また、他の人の感想を聞くことで、新たな気づきや、人と人との「つながり」もできます。